

琉球大学学術リポジトリ

新聞記事：南洋ラジオ新聞

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2018-04-16 キーワード (Ja): 矢内原忠雄 キーワード (En): Yanaihara Tadao 作成者: 矢内原, 忠雄 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/38024

矢内原忠雄文庫

史料名	南洋ラジオ新聞 昭和九年六月三十日(南洋興発株式会社、ロタ島準農者募集記事あり)
封筒番号	183
原文所蔵者	琉球大学附属図書館
撮影年月日	平成 17 年 11 月 10 日
撮影者	富士写真フイルム 株式会社
備考	

矢内原忠雄文庫

封筒番号：183

史料名	南洋ラジオ新聞 昭和九年六月三十日(南洋興発株式会社、ロタ島準農者募集記事あり)
資料形態	新聞/二面
枚数	1
页数	2
縦 (cm)	39
横 (cm)	27.5
厚さ (cm)	
書誌的事項	南洋 今泉分類記号：P



本紙 日吉 三二 紙 一久 田 部 號 十 三 金 行 一 價 定 録 十 金 行 一 料 告 廣

ちん黙を破つて 大藏省事件明へみ

法相口頭を以て報告せん

(東京二十九日)大藏省疑獄事件に關する小山法相の報告は來月に持ち越されるものとみられてゐたが二十八日の小山法相、林總長との重要協議によつて二十九日開かれる閣議前に口答を以つて首相及び閣僚に報告する事となつた、右報告の一日も早く閣議を希望し且つ時局に鑑みても速に報告すべきであるとの政治的見地に立ち急轉直下口答を以て報告する事となつたのである

世に出る 明治天皇紀 普及版を頒布

【東京二十九日】明治大帝の御治績を總纂した明治天皇紀は昨年九月完成したがこれを民間へも配布する事となつた

廣瀬中將待命

【東京二十八日】第十師團長廣瀬中將は二十八日待命仰せつけられ後任には十師團司令部付の立川中將が親補せられる事になつた

偉徳を偲ぶ 故元帥の記念事業 朝野の名士會合す

【東京二十九日】故東郷元帥の記念事業相談會は二十八日午後五時から海相官邸に於て開かれ齋藤實相、山本内相、林陸相、清浦伯等朝野名士二十三名及び海軍側より海相、加藤大將出席結局記念館の内一つを選ぶ事となり同日の出席者全部を發起人として研究する事になつた

滿ソ水路會議

【新京二十八日】滿洲國、ソヴェットの水路會議は二十八日午後三時から滿ソ兩國代表の第一回會議がなされた

支結ぶ大動脈 やつと解決の通車問題 奉天から北平へ

【北平二十八日】北支通車問題は日支兩國當局の努力によつて圓滿に解決し二十八日發表された右公表によれば奉天から北平へ通車問題は彼我両者間に於て慎重研究の結果一個列車を奉天及北平より運轉する事に決し七月一日より實施の豫定なりと、これにより滿洲事變を断絶してゐた滿洲國と北支那とを結ぶ大動脈が二年九月頃までに結合する事となる

北鐵交渉を持出す 昨日再び

【東京二十九日】發國大使レニエフ氏は二十八日午後二時半外務省に廣田外相を訪問モスコイ政府の訓令に基づき前回の讓歩に更に讓歩をなし北鐵交渉をはかりなしたと述べた、これに對し廣田外相は滿露兩國の主張には尙相當の懸隔があるを以つて中間會商を開き滿洲國側と接衝しては如何と述べたに對し大使は中間會商開催に關してはモスコイ政府の回訓を仰ぎ何分の回答をなす旨を各々四時辭去した

英國大使 クライウ氏 信任狀捧呈

【東京二十八日】新任英國特命全權大使クライウ氏の信任狀捧呈式は午前十時半宮中風儀の間で行はせられた

北支駐屯 部隊凱旋

【東京二十八日】第一、第七兩師團の北支駐屯軍務總隊は二十八日廣島に上陸した

漂流の首!! 被害者はおてん屋 犯人直ちに逮捕

【東京二十八日】去る十四日屋丸若夫妻と判明したが加田田川に漂流せる鏡鐵で被害者は岡氏宅に同居した事断された手、首が発見されたある小林某と判明加害の警視廳では直ちに大活躍を開始した結果被害者は渋谷を越したものであつた二十八日朝逮捕された

券集 南洋興發株式會社

弊社事業地ロタ島二入耕セシムベク準小作人(一町農ヲ左記條件ニヨツテ募集ス

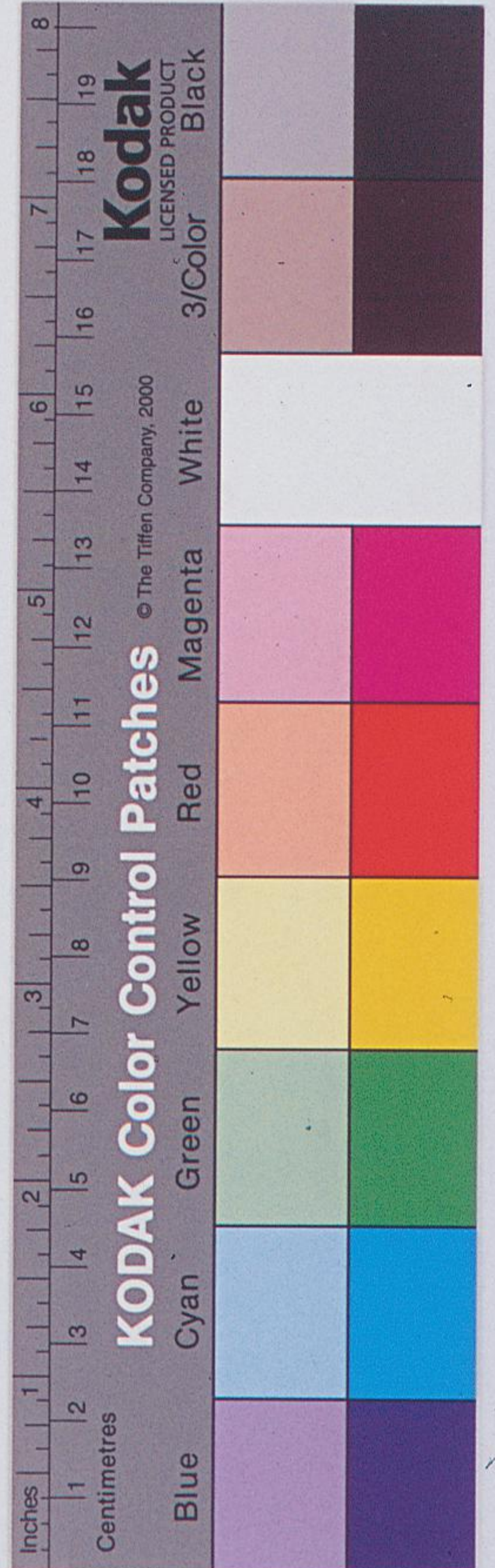
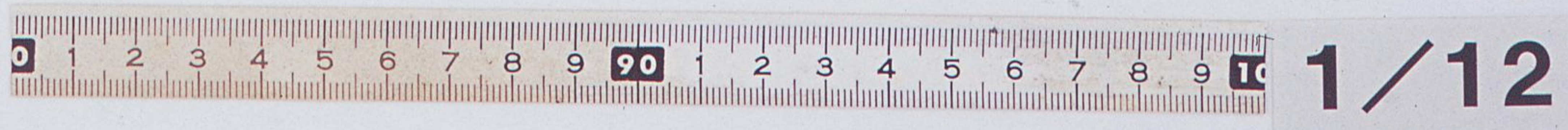
- 一 募集戸數 五十戸
- 一 應募者出身地 (一) 冲繩縣出身者 (二) 限ルル
- 一 募集區域 サイパン島
- 一 資格 (一) 年齢二十歳以上四十歳以下 (二) 純農業者ニシテ夫共ニ身強體健者ニシテ夫共ニ以下ノ乳兒ナキ者 (イ) 役牛ヲ所持スルコト但現在ニ役位ノモノニシテハ可シ (ロ) 擔賃ハ會社ニ於テ負擔スルコト (ハ) サイパン島ニ於テノ推薦者ニ限ルコト
- 一 一條 件
- 一 申込期間 自七月一日 至八月十日
- 一 申込方法 (一) 希望者ハ推薦者ト共ニ申込ヲナスコト

興發酒保

人荷御

ヒトマジキ トマトサーデン 澤奈良 密柑 廣瀨 德田 鮮米 牛ズボン 乘馬ズボン 菜葉服ズボン 子供半袖シャツ 子供靴 下池 花王シヤム 救女トカシ 命丸 水ス 子供帽 子 ヘルメット帽

興發酒保



マイクロ写真撮影訂正票

訂正の理由	撮影操作誤りの為
訂正結果	直前の / コマ取消 / コマ再撮影
訂正年月日	平成 17 年 11 月 10 日
このフィルムは上記の理由で取消、又は再撮影し訂正しました。	
撮影責任者	富士写真フイルム株式会社 桃園 芳朗



黄金魔乃

【75】 高桑義生 作
樋口悦也 畫

七曜星の光(十)
 意次は酔つてゐた。龍の
 の動揺につれて、うつとり
 と睡氣を催して来る、意識
 のはしに、なまめかしい繪
 巻が、女の嬌態がくりひろ
 げられる。
 その夜は、深川と中洲の
 藝者が、中村理と市村歴の
 役者が、腰を取りもつたの
 で、近ごろになく面白、
 はなやかな通算であつた。
 水のたれるやうなあだッ
 ぽい藝者たち、
 色ッぽい若女形……
 お美津の方は上げんて
 あつた。みんな有頂天だつ
 た。
 かれの回想はされく
 ある。
 お美津の方のみがきあけ
 られた肌光が、妖冶なこ
 感のなまなさが、無満な
 芳醇な香りをもつ肉體が、
 取りみだした姿態が、くる
 く細腰のなかを駆けめ
 ぐる。(お富久よりも美し
 いわい……)
 富久はかれの妾で、お美
 津の方の妹である。意次は
 あたふと、秘手の手と



「富久、お富久に立ちまっ
 て来た。だからちよつと惜
 し氣がするのだ。
 (富久にでもなるさ……)
 意次はちよつとをいた野
 心に、ふと我にかへつた。
 とたんに、龍がとまっ
 て、
 かの幻想を取りにがして
 興あつた顔である。

龍の外から、たになら
 の聲である。
 「龍、容易ならぬ男でござ
 います」
 「よい、よい」
 意次はうろさうに答へ

「あやし、氣配がございま
 す。何者か殿を待と伏せい
 た。」
 龍はあがつた。
 家老花房小源太と、松本
 伊豆守の指圖で、八方に人
 が飛んだ。
 龍は木塔橋をわたつた
 馬頭の人々は姿を消して
 去つた。田沼の供ぞろひは一
 路山下御門に向かつて行つ
 た。何事もなかつた。
 その翌日、堀田五郎左衛
 門は、主人松本越中守定
 信の名代として、莫大な贈物
 をたづさへ、田沼邸を動
 けた。
 前夜の貴い人は、いふ
 までもなく越中守定信であ
 る。定信は人も知る八代将
 軍吉宗の愛子田安武の子で
 白川の城主松平侯の養子
 嗣子となり、この三年八月
 に封を繼いで、越中守とな
 つたばかりだ。後の寛政の
 名宰相、なほ白川樂懸の
 名だ。またこの時は三十餘
 硬骨いつぱん氣の壯者で、
 かねて田沼の尊權をにくみ
 意次を生け置いては、徳川
 幕府危しとの信金をもつて
 一身を犠牲に、かれを刺さ
 んと企て、つねに短刀をぶ
 とらして、田沼の身邊
 に近づく機会をねらつて
 たといふ剛毅の貴公子だ。
 昨夜腹心の壯者數名を率ゐ
 意次の歸路を要して斬り込
 むとしたのであつた。
 今まで度も田沼の門を
 たしかれた松平越
 中守が、その後は斷然歸朝

松江氏肖像 題字銅板到着

松江春次氏肖像は、松石も
 始んと完成した今や肖像の
 到着を待ちつゝある状態に
 あるが、今程總理大臣子爵藤
 田氏による題字及文藝博
 士、黒坂勝美氏による、徳
 津講島の企業者失敗せるを
 見、君奮然として單身渡
 津し、烟雲雨を冒して諸島を
 調査し大正十年南洋興發會
 社を創始し、拮据經營十數年
 社運日に盛なり、君の至誠
 に盛大なる式典が舉げられ
 る筈であり又花火其他の餘
 興がある。
 「夫れ古又を成すは至誠よ
 く人の知を得るにあり、余
 余の亡弟傳作は君と同齡尤
 も親交あり余乃ち辭する能
 治九年前島縣會津に生る三
 十等右にすると云ふ。
 十二年東京高等工業學校を
 卒へ三十六年來國籍治安那
 大學に遊びて學位を得歸朝
 昭和九年七月吉日
 文學 黒坂勝美撰並書
 博士 齊藤實書

松江春次氏像
子爵 齊藤實書

昭和九年六月四日建設着手
 同 九年七月廿五日完成
 建設者 松江春次君肖像建設會
 製作者 立體寫真株式會社
 盛岡 勇夫

除幕式は 八月四日 決定した式次

来る八月四日松江春次氏
 肖像除幕式は、松本サイパン
 神社前廣場に於て催される
 事に決定をみたが式次順序
 は左の通りである
 日時 昭和九年八月四日午
 前十時三十分
 場所 サイパン神社前廣場
 順序
 (同人場着席)
 一 神官行事
 二 祝詞
 三 式次係長
 四 経過報告
 五 除幕
 六 來賓有志祝辭演說
 七 祝電披露
 八 謝辭
 九 昇神行事
 十 饗
 十一 閉會之辭
 十二 宴會
 (除興ヲ含ム)

興發藤田技師
 入港のテニアン丸にて歸彩
 した。
 (人事往來)
 ○興發東京事務所購買主任
 斜森茂氏二十九日入港の
 横濱丸にて來彩した。
 工場の通知により訂正す

◇壓搾と歩留◇(サイパン製糖所)

第十八旬(自六月十一日
至六月二十日)

原料	一七、二一六、六五〇斤
搾斤量	一七、二一六、六五〇斤
果計	三〇、二二九、四五〇斤
本旬歩留	一割〇分〇厘一毛
平均歩留	一割二分六厘〇毛